日本から見たグローバルサウスの重要性

— 消費市場を超える新たな可能性

NRI インド
グローバルナレッジセンター長　Arpit Agarwal

日本をはじめとする先進国は、グローバルサウスとの連携強化に力を注いでいる。世界の人口の約 77%を占めるグローバルサウスは、いまだ世界の GDP※1 のわずか 35%にすぎず、今後の重要な成長市場と見られている。加えて、地政学的状況や勢力図の変化を背景に、経済成長だけでなく、安全保障上の観点からも、先進国は連携強化を進めている。

日本が提唱する「自由で開かれたインド太平洋（Free and Open Indo-Pacific：FOIP）」は、複雑で不確実な世界の安定と繁栄を実現するための取り組みの一つであり、現在は、グローバルサウスの国々を取り込むまでに拡大している。この動きは、インド太平洋地域の未来を形成する上で、アフリカ、東南アジア、そして太平洋諸島の発展途上国を巻き込むことがいかに重要であるかを物語っている。

また、グローバルサウスの数カ国は技術革新のリーダーとして台頭しており、活発なスタートアップエコシステムを育んでいる。中でもインドは、急速に拡大するデジタルインフラ、政府の支援政策、さらにさまざまな分野における優秀な人材を有している。結果として、ソフトウエア開発から最先端の AI や機械学習によるイノベーションが進み、質の高いエンジニアの供給源へと変貌を遂げている。同国は、テクノロジーの活用を通じた社会的課題の解決に取り組んでおり、開発したソリューションは、アフリカや南米など他のグローバルサウス地域でも適用可能である。日本企業にとって、インドと協力し、革新的な解決策をより多くの人々に提供する貴重な機会となると考えている。

今回の NMR は、① AI、② GCC（グローバル・ケイパビリティー・センター）、および③分散型エネルギー資源（以下 DER）において、グローバルサウスにおけるリーダーとしてのインドが果たしてきた実績に焦点を当てる。① AI 分野では、インドが直面する課題解決に向け、人材とイノベーションをいかに活用してきたかを論じる。② GCC 分野については、イノベーションとデジタルトランスフォーメーションの中心を担ってきたインドの事例。③ DER に対するインド国内の認識やそれに基づくインセンティブ制度の導入、および日本を含む諸外国との連携を通じたソリューションの提供実績が、グローバルサウスへの広がりを見せる可能性を示している。

インドが持続的な発展を続けてきた背景や要因に焦点を当てることで、日本企業がインドという国・市場を理解する助けとなり、さらには、インドと共通の社会課題を有するグローバルサウスの他の国々への進出や協業を検討する日本政府各機関や民間企業にとって、協業の仕方や活用方法という観点で読者のお役に立てれば幸いである。

※1　国際通貨基金（IMF）データに基づく NRI 分析。上記数値は 2023 年のもの

NRI マネジメントレビュー Management Review

本件に関するお問い合わせ先：NMR編集事務局　nmredit@nri.co.jp（2026.1追記）

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。すべての内容は日本の著作権法および国際条約により保護されています。
Copyright© 2024 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.